

倫理 研究課題 <西洋08>

教科書：p ~ 資料集：p ~ ノート：p ~

●合理論（大陸合理論）つづき

②スピノザ（17C・オランダ）

神一元論：神だけが唯一の実体で、あらゆるものは神に由来する

∴神＝世界（自然）そのもの（「神即自然」＝汎神論）。（→∴神≡自然法則）

人間の生き方：神の知的愛を理解し、実践すること

＝「永遠の相の下に」神の必然の法則を認識

＝人間的レベルの出来事も「永遠の中の小さな存在」と考えれば、
とるに足らないことになる。

③ライプニッツ（17～18C・ドイツ）

宇宙：神が作った無数のモナド（単子）によって形成（多元論）

モナド（単子）：独立・不可分で心身両面をもつ実体（＝「モナドは窓をもたない」）

表象：それぞれの宇宙を映し出す

無機物のモナド→暗い

人間のモナド→明るい

神のモナド→光そのもの

欲求：より明るい方向へ変化しようとする

その変化は、神によって総体としては良い方向に向かうように
定められている（予定調和）

∴歴史は常に新しい完成に向けて変化している